



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン核問題：IAEA 事務局長報告に対するイラン側反応 (12日付シャルグ紙ほか)

1. IAEA 事務局長報告に対するラーリージャーニー国会議長発言 (13日、国会公開審議。13日付イラン国営通信他)
  - (1) (天野事務局長に対して) シオニスト体制の報道官が、同体制が IAEA に提供したものが事務局長報告に盛り込まれたことを明確に発表していることは、貴方 (天野事務局長) と IAEA の面目を潰すものではないだろうか。
  - (2) この1年間、(イランの) IAEA に対する義務を超えた査察が実施されている一方、同報告はあまりにも性急かつ根拠に基づかずに作成されたものであるため、ロシア、中国、NAM 諸国 (Non-Aligned Movement、非同盟諸国運動) といった国々が、同報告は根拠のない破壊的なものであるとしている。
  - (3) イラン国会は、このようなやり方は、敵意と米国およびシオニスト体制のコピー以外の何物でもないと考え、IAEA に警告する。(IAEA に対する) 協力の有無は、IAEA による非専門的な決定に何の影響も及ぼさないことを IAEA の最近のやり方が示したため、イラン国会は、IAEA との協力関係のあり方の見直しを行う必要があると考える。従って、国会安保委員会は他の機関との協力の下、本件に関する検討を行い、その結果を提出する必要がある。
  
2. ロシア訪問におけるバーゲリー-SNSC 次長発言 (11日、露安全保障会議次長との会談後の記者会見。12日付シャルグ紙ほか) (SNSC=国家安全保障最高会議)
  - (1) 本訪問において、露高官 (複数) と会談を行い、最新の IAEA 事務局長報告とそれに対して取るべき立場、および、本件に関わる二国間協力の形について意見交換を行った。
  - (2) 本訪問において議論された重要な事項の一つは「ロシア提案」であり、本件についてロシアのラヴロフ外相、外務次官、パトルシェフ安全保障会議書記および同安全保障会議次長 (複数) と話し合った。
  - (3) イランとロシアの安全保障評議会間の戦略的協力に関する文書が完成し、本訪問において両者間の署名に至った。同文書は、安全保障、経済、政治、情報という様々な分野にわたる両国の安全保障評議会間の協力を含むものであり、本合意書の署名により両国の安全保障評議会間の協力の形式および内容が明確化された。